

【今週の注目疾患】

《インフルエンザ》 インフルエンザ注意報の発令について

2024年第49週における県内のインフルエンザ定点医療機関からの定点当たり報告数は、前週の8.14(人)から増加して13.23(人)となり、注意報基準値(10.0)を超えたことから、本日インフルエンザ注意報を発令した¹⁾(図1)。

第49週において、全ての保健所管内で前週より定点当たり報告数が増加しており、特に君津31.46(人)、船橋市18.53(人)、海匝17.75(人)が多かった(図2)。また、定点医療機関の任意の協力により集計している迅速診断の結果では、2,460例中2,386例(97.0%)がA型であった。

インフルエンザは、突然の高熱、頭痛、関節痛など、普通の風邪に比べて全身症状が強く、気管支炎や肺炎などを合併し重症化することがあるため、体力のない高齢者や乳幼児などは、特に注意が必要です。手洗いや咳エチケットの励行に努め、重症化を予防するための予防接種も検討しましょう¹⁾。

図1: 千葉県の流行シーズン別インフルエンザ定点当たり報告数

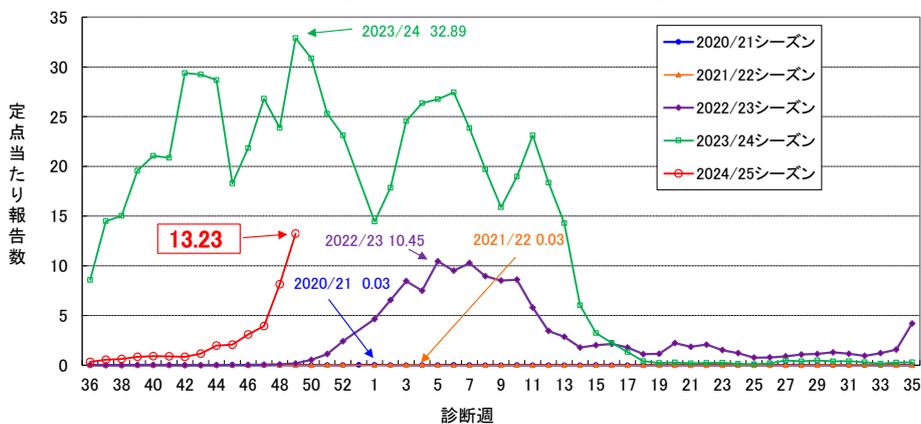
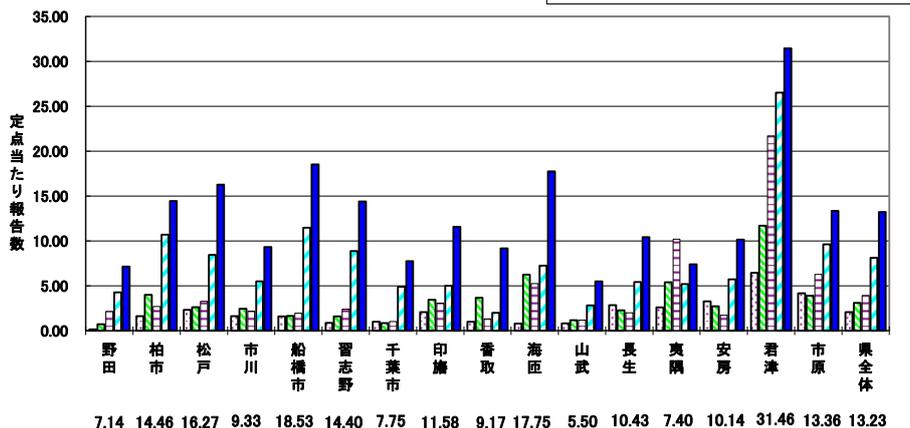


図2: 千葉県の保健所別インフルエンザ定点当たり報告数



■参考

1)千葉県健康福祉部疾病対策課：インフルエンザ注意報の発令について (令和6年12月11日)

<https://www.pref.chiba.lg.jp/shippei/kansenshou/influenza/influ2009.html>

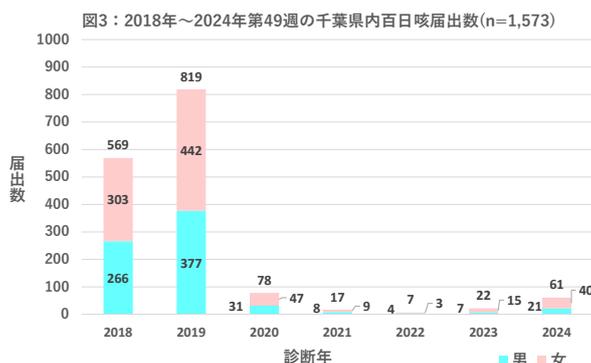
《百日咳》

2024年第49週に県内医療機関から7例の届出があり、累計は61例となった。

近年の届出数は、2018年、2019年と比較すると低い水準にあるが、増加傾向にあることから、今後の動向に注意が必要である（図）。

2024年に届出のあった61例の概要は以下のとおり。

性別では男性が21例（34%）、女性が40例（66%）と女性が約7割を占めた。年代別では、10歳未満が22例（36%）、10代が19例（31%）、20代が7例（11%）と30歳未満で約8割を占めた。予防接種歴は、4回接種が34例（56%）、3回接種が2例（3%）、接種歴不明が23例（38%）、未接種が2例（3%）であり、年代別にみると、10歳未満（18/22）及び10代（16/19）では80%以上が接種有となっていた。



百日咳は、グラム陰性桿菌である百日咳菌（*Bordetella pertussis*）のほか、一部パラ百日咳菌（*Bordetella parapertussis*）も原因となる。感染経路は、鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染及び接触感染である¹⁾。国立感染症研究所の報告では、重症化リスクが高い6か月未満児の患者の感染源の多くが兄弟や両親であったとされている²⁾。

特有のけいれん性の咳発作（痙咳発作）を特徴とする急性気道感染症であり、臨床経過は以下のとおり3期に分けられる¹⁾。

① カタル期（約2週間持続）

通常7～10日間程度の潜伏期を経て、普通のかぜ症状で始まり、次第に咳の回数が増えて程度も激しくなる。

② 痙咳期（約2～3週間持続）

次第に特徴のある発作性けいれん性の咳（痙咳）となる。なお、年齢が小さいほど症状は非定型的であり、特に乳児期早期では特徴的な咳がなく、単に息を止めているような無呼吸発作からチアノーゼ、けいれん、呼吸停止と進展することがあるとともに、合併症として肺炎の他、脳症も重要な問題となっており注意が必要である。

③ 回復期

激しい発作は次第に減衰し、2～3週間で認められなくなる。

2023年度からは、百日咳による乳児の重症化予防の観点から、定期予防接種の接種可能な最低年齢が生後3か月から生後2か月に前倒しされた³⁾。

2020年以降、大きく減少したことについては、新型コロナウイルス感染症対策として「人と人の距離の確保」「マスクの着用」「手洗いなどの手指衛生」などの感染対策の実施を推進したことによると考えられている²⁾。

■引用・参考

1)国立感染症研究所：百日咳とは

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/477-pertussis.html>

2)国立感染症研究所：全数報告サーベイランスによる国内の百日咳報告患者の疫学（更新情報）2022年疫学週第1週～第52週

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pertussis-m/pertussis-idwrs/12405-2022-1-52.html>

3)厚生労働省：「予防接種法第5条第1項の規定による予防接種の実施について」の一部改正について（令和5年3月31日）

<https://www.mhlw.go.jp/content/001089225.pdf>